

丸岡城下町再生古地図

丸岡城下町再生古地図とは

丸岡城関連絵図を総合的に検証し、国土地理院地図と照合させて、丸岡藩本多氏時代（17世紀中頃）の丸岡城と城下町の様子を表したものです。



丸岡城下町再生古地図

スマートフォンでもご覧いただけます

スライダー機能で今と昔の地図を比較しながら街歩きをお楽しみください。



スマートフォン画面（イメージ）

丸岡城下町を歩く

丸岡城周辺には、江戸時代の面影が今なお残されています。坂井市公式ホームページで公開している「丸岡城下町再生古地図」歩いて発見！知ってもっと好きになる！では、城下町を巡りながら、丸岡城に関する調査報告や地域に伝わる言い伝えを、クイズを交えて楽しく紹介しています。アプリを使って自宅で城下町の歴史をたどるもよし、実際に町を歩いて散策するもよし。ぜひ歴史を“知って”、“体感して”みてください。

「丸岡城下町再生古地図」歩いて発見！知ってもっと好きになる！ホームページはコチラ



丸岡城公式サイト

丸岡城の入城料や営業時間、各種イベント情報などの最新情報は、公式サイトで随時更新されています。ご来城の際の参考にぜひご覧ください。

丸岡城公式サイト



令和8年3月発行
坂井市教育委員会 文化課 丸岡城国宝化推進室
〒919-0592 福井県坂井市坂井町下新庄1-1
電話：0776-50-3164 FAX：0776-68-1480
E-mail：bunka@city.fukui-sakai.lg.jp



知って
おきたい!!

丸岡城 豆知識

丸岡城の概要

丸岡城の所在と特徴

丸岡城は福井県坂井市にある城です。瓢箪のような形をした小さな丘（城山）に天守を設け、かつてその城山の周りに二の丸の曲輪と内堀を、その外側に三の丸と外堀をめぐらせていました。形状は平山城。天守は独立式望楼型で、全国に12しかない現存天守（江戸時代以前から存在する）のひとつとして、国の重要文化財に指定されています。

柴田勝豊が築いた丸岡城

丸岡城は柴田勝家の養子（甥とも）であった柴田勝豊により築られました。戦国大名朝倉家の滅亡後に、越前で一向一揆が起こりましたが、天正3年（1575）に越前に進攻した織田信長が一揆を鎮圧。一揆方の拠点の豊原寺を焼き討ちにし、重臣の柴田勝家に越前の大部分の支配を任せ、柴田勝豊に豊原の地を与えました。やがて柴田勝豊が、西の平野の丘上に築いたのが丸岡城です。以後、この地の政治・軍事の中心は、丸岡城とその周辺に移りました。

城主の移り変わりとう丸岡藩の誕生

その後、城主は安井氏、青山氏、今村氏と変わりました。今村盛次は越前松平家（福井藩）の重臣でしたが、松平家内部の騒動で失脚し、代わって本多成重が城主となりました。福井藩主の松平忠直が幕府により豊後に配流され、藩主が代わるのにもない、寛永元年（1624）にその家老だった本多成重が大名として独立をゆるされました。丸岡藩の誕生です。今の天守は、その頃に建てられたことがわかっています。本多家は4代続きましたが、御家騒動により改易され、代わって有馬清純が丸岡に入りました。有馬家は明治維新まで8代続きます。



冬の丸岡城



丸岡城・豊原寺の位置図

明治以降の丸岡城と天守の保存

明治時代の廃城令によって、天守を含めた土地と建物はすべて払い下げられ、内堀も明治後期から昭和初期までにほぼ埋められました。有志によって買い取られた天守は、後に町に寄付されて公有となりました。昭和戦前期に解体修理工事が行われた後、昭和23年（1948）の福井地震によって天守は倒壊しました。しかし戦前期の修理工事の図面や写真をもとに、天守の材料や石垣などの主要部材の多くを再利用して修復工事が行われ、昭和30年に修復再建されました。柱や梁などのほとんどは倒壊前の部材で、規模や建築形式もそのまま、文化財としての価値が変わることなく保たれています。

とよはらし 豊原寺

豊原寺の場所と成り立ち

豊原寺は、丸岡城から約4km東の山間部に位置した寺院で、平泉寺や大谷寺などと並び、越前における白山信仰の拠点として栄えました。寺の由緒をまとめた「白山豊原寺縁起」によると、白山を開いたことで知られる僧泰澄が薬師如来を彫って祀ったのを、その始まりとしています。

中世の豊原寺

経済力や武力をもって、源平合戦や南北朝の争乱など武家同士の争いに積極的に関与し、山中に坊舎などの寺院伽藍がひしめいていた豊原寺は、中世の越前にあって、平泉寺（勝山市）と並ぶ有力寺院でした。天正元年（1573）に朝倉家が織田信長によって滅ぼされ、翌年、越前で大規模な一向一揆が起こると、豊原寺はその本拠地となりました。天正3年に、越前を取り戻すため攻めてきた信長によって、一揆は鎮圧され、この時に豊原寺も焼かれたといわれています。

豊原から丸岡へ

織田信長による越前再平定の後、豊原の地を与えられた柴田勝豊は、やがて新たに丸岡城を築き、居所を移します。江戸時代に書かれた地誌などの編纂物によると、その築城は天正4年（1576）のこととされています。

その後の豊原寺

織田信長による焼き討ちの後、江戸時代に越前松平家（福井藩）の寺領寄進と保護を受け、一寺院として再興しましたが、明治時代に廃寺となり、現在は伽藍跡などが残っています（坂井市史跡）。



豊原寺跡



越前豊原寺見取図（願泉寺蔵）



柴田家 家紋



本多家 家紋

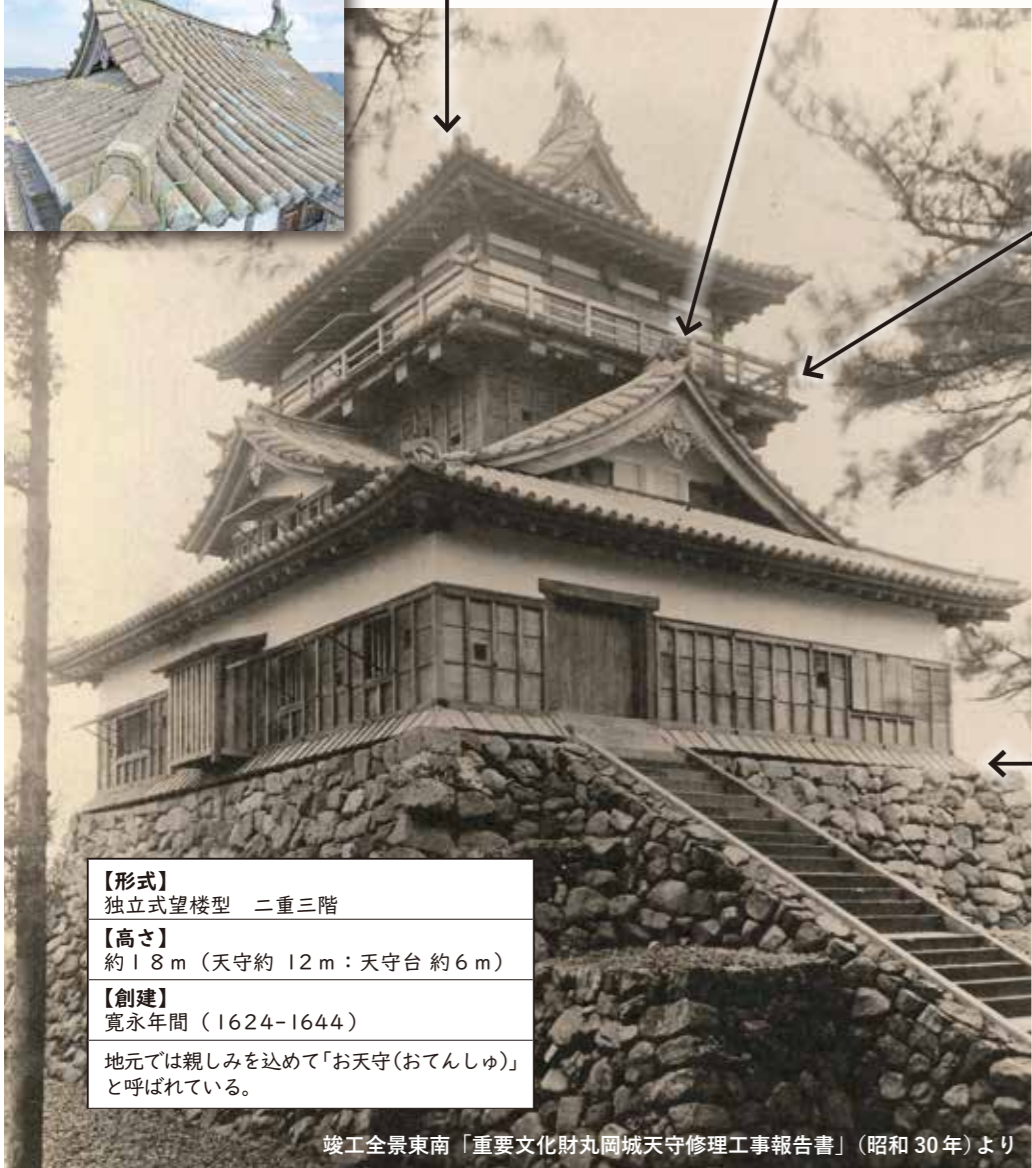


有馬家 家紋

丸岡城の見どころ

現存唯一の石瓦

丸岡城といえば石瓦。福井名産の笏谷石しやくたにいしで作られた瓦は、雨に濡れると青みが増します。しかし、天守創建当初は木の板を重ねたこけら葺きであったことがわかっています。こけら葺きから石瓦葺きに変えたことで屋根の重量は5～6倍に増えたと考えられます。昭和時代には、多くがより耐久性に優れた石川県小松市産の滝ヶ原石たきがはらに変わりました。



天守では珍しい阿吽一對の鬼瓦



天守東側 (阿)



天守西側 (吽)

昇降要注意！ 急勾配な階段



天守2階階段

廻縁と高欄

3階の廻縁まわりえんと高欄こうらんは古い天守の特徴と考えられていましたが、実は後世に改造されたものです。もともとは板葺の腰屋根でした。



水切り屋根

天守と天守台の間隙から雨水が侵入するのを防ぐために設けられたと思われます。天守台の形と建築の平面形が合致しないのは技術的に未熟だったからではないかとも言われています。



通し柱を持たない望楼型

天守の1階と2・3階は通し柱を持たない構造。1階中央の太い6本の柱が上層の荷重を支えています。この柱はもともと掘立柱であったとされますが、これは最初礎石立ちであったものが、根本が埋められて結果的に掘立柱構造になったもの。この6本のうち、4本は江戸中期、2本は建設当初の江戸初期に据えられたもの。土台となる1階部分が2・3階の望楼部を支える構造は丸岡城天守の特徴のひとつです。

外堀

侍屋敷やその周囲の城下町は外堀に囲まれていました。その一部は田島川として残っています。



田島川

天守台と城の正面

近年の調査で天守台の南面から石垣の痕跡を確認しました。かつては今と異なる形の石垣があったことがわかります。さらに、本丸から南に一段下がる縄張りや、南側の外堀の形状などから、南面を意識した縄張りがうかがえます。北西を大手門とする縄張りは本多重能在城時の正保期に描かれた絵図でも確認できるので、南を正面とする縄張りはそれ以前、柴田勝豊が築いた丸岡城の痕跡かもしれません。



「正保城絵図」のうち「越前国丸岡城之絵図」
(国立公文書館蔵)

城山の石垣

かつて城山の多くが石垣に覆われていました。天守台は加工の少ない自然石の野面積みで、四隅は算木積みさんぎつで積まれています。本丸南側の一段下に伸びる石垣は江戸時代の絵図でも確認できます。

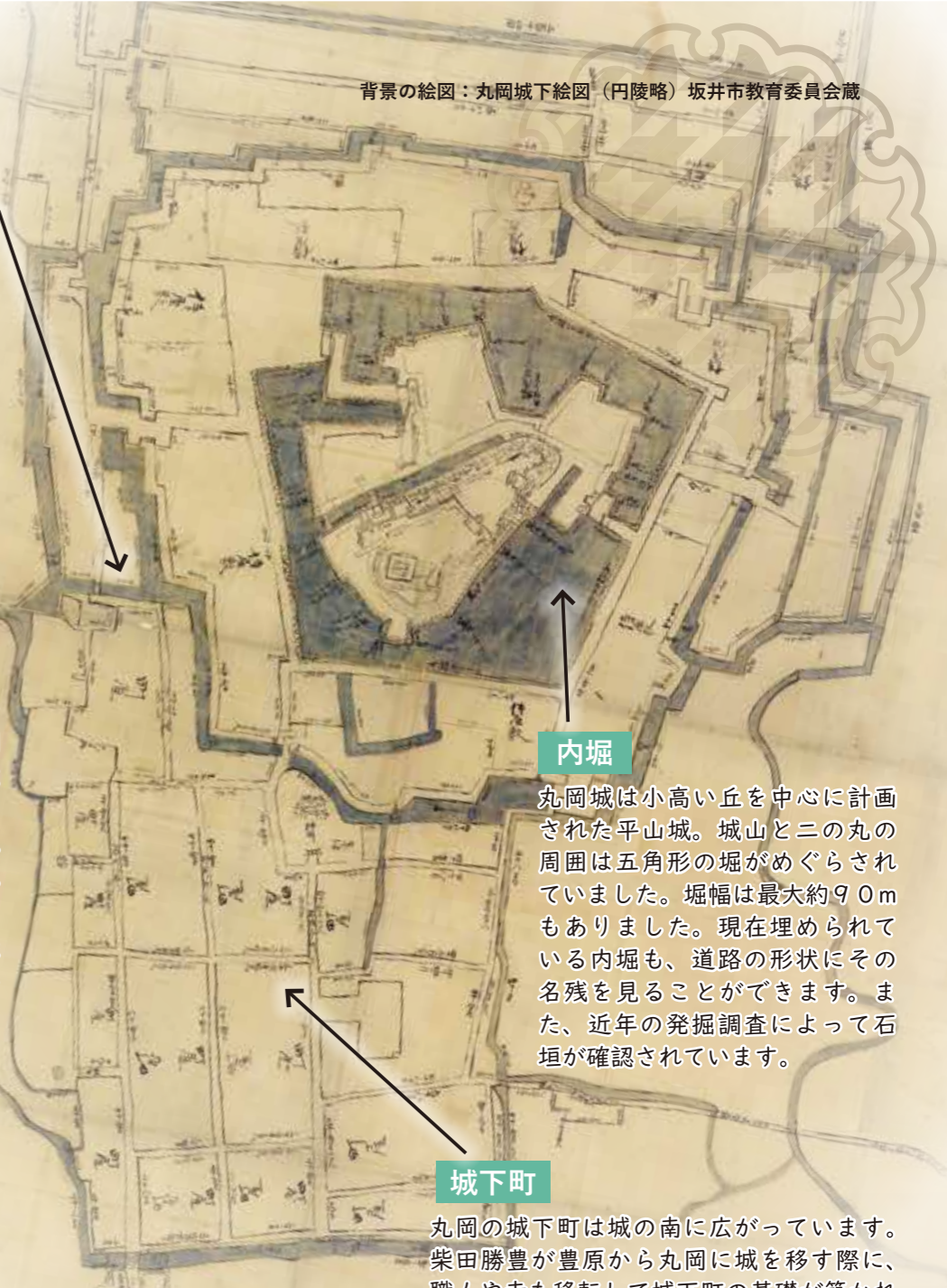


最初は金シャチ？

天守には最初は木製金箔押しきんぱくおしの鯨くじらが載っていたそうです。その後木芯銅張となり、昭和17年には一時石製になりましたが、福井地震後に再び木芯銅張になり今に至ります。破風に取り付けられる懸魚けんぎょも、かつては漆塗りだったことがわかっています。創建当初はより雅やかな天守だったようです。



背景の絵図：丸岡城下絵図 (円陵略) 坂井市教育委員会蔵



内堀

丸岡城は小高い丘を中心に計画された平山城。城山と二の丸の周囲は五角形の堀がめぐらされていました。堀幅は最大約90mもありました。現在埋められている内堀も、道路の形状にその名残を見ることが出来ます。また、近年の発掘調査によって石垣が確認されています。

城下町

丸岡の城下町は城の南に広がっています。柴田勝豊が豊原から丸岡に城を移す際に、職人や寺も移転して城下町の基礎が築かれました。今も豊原ゆかりの町名や寺社が城の南側に多く残っています。



寛永期丸岡城天守想像図
(作成：坂井市教育委員会)

歴代城主と略年表

歴代城主

城主	在任期間
柴田 勝豊	天正4~天正10 (1576~1582)
安井 家清	天正10~天正11 (1582~1583)
青山 宗勝	天正11~慶長5 (1583~1600)
青山 忠元	慶長5~慶長17 (1600~1612)
今村 盛次	慶長18~正保2 (1613~1645)
本多 成重	正保2~慶安4 (1645~1651)
本多 重能	承応元年~延宝4 (1652~1676)
本多 重昭	延宝4~元禄8 (1676~1695)
本多 重益	元禄8~元禄15 (1695~1702)
有馬 清純	元禄16~享保18 (1703~1733)
有馬 一準	享保18~宝暦7 (1733~1757)
有馬 孝純	宝暦7~明和9 (1757~1772)
有馬 允純	安永元~天保元 (1772~1830)
有馬 誉純	天保元~天保8 (1830~1837)
有馬 徳純	天保9~安政2 (1838~1855)
有馬 温純	安政2~明治4 (1855~1871)

震災を経てもなお

天守は昭和23年に発生した福井地震で倒壊しましたが、かつての部材を最大限利用して修理されました。近年の調査で主要な構造材の約7割は江戸時代のものと判明し、構造様式を含めて当時の姿そのままに修理されたことがわかります。



福井地震で倒壊した丸岡城天守



丸岡城天守修理工事の様子

「重要文化財丸岡城天守修理工事報告書」(昭和30年)より

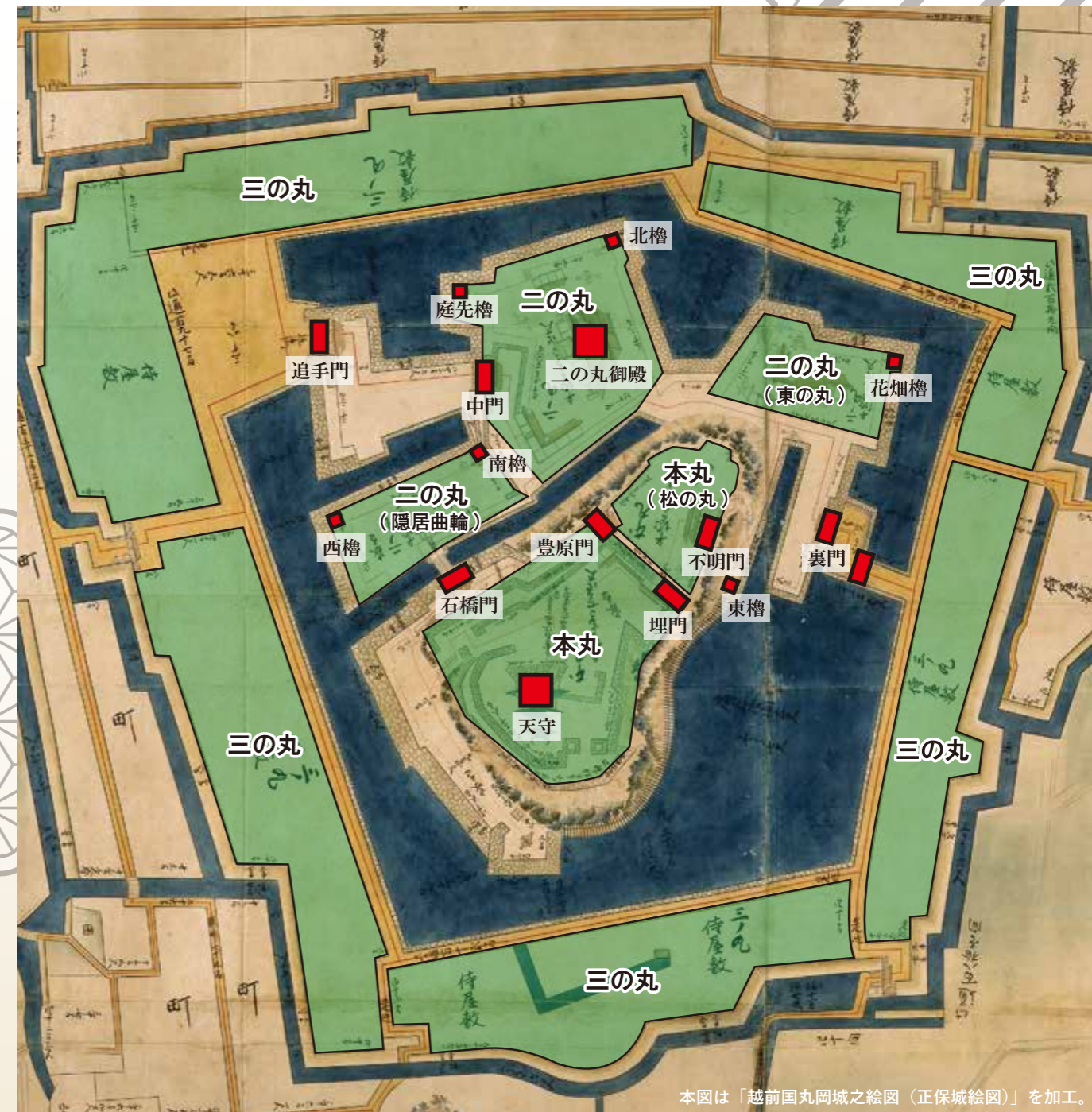
略年表

城主	年代	歴史(資料・絵図)
	天正3(1575)	勝豊、信長により豊原を与えられる(越前国相越記)
柴田	天正4(1576)	勝豊、丸岡城築城(越前国名勝志 他)
	天正5~8	(加賀一向一揆との戦い)
	天正9(1581)	丸岡城に関する記述(フロイス書簡)
青山	天正11(1583)	青山氏が城主に
今村	慶長5(1600)	今村盛次が城主に
	慶長10(1605)頃	「越前国絵図」に天守の姿が描かれる
本多	慶長18(1613)	本多成重が城主に
	寛永元(1624)	福井藩から独立し、丸岡藩誕生
現在の丸岡城天守が整備される		
	正保元(1644)	「正保城絵図」に天守が描かれる
	正保2~慶安4(1645~1651)	「初め居館の類なりしが、重能に至りて城池全く成る」(古今類聚越前国誌) ※本多重能の代に城郭の整備が完了
	元禄元(1688)	天守1階棟通り柱5本入れ替え
有馬	元禄8(1695)	本多家が改易、有馬家が丸岡藩主に
	元禄15(1702)	二の丸(奥向)の普請
	享保2(1717)	三層破風板取替
	享保16(1731)	丸岡城内南側角、神代七兵衛正明宅で失火
	延享4(1747)	夜に丸岡城内南側角、神代善四郎の家焼失
	宝暦4(1754)	本丸石垣南角修理
	明和2(1765)	初層東妻裏甲取替
	文化9(1812)	石瓦葺き替え、3層化粧垂木等取替
	文化13(1816)	丸岡城内の堀齋宮純被の表長屋で失火
	弘化3(1846)	大風により鯨落下
	嘉永6~7(1854~55)	外部壁板等修理
	安政5(1858)	【安政地震】天守薨・鯨・石垣・本丸櫓等に被害
	慶応元(1865)	鯨の改修
	明治4(1871)	廃藩置県で丸岡藩がなくなる
	明治5(1872)	天守ほか櫓、門、土蔵等が払下げ
	明治34(1901)	天守が町に寄付され、丸岡公会堂となる外壁、三層縁回り、雨壁等の修理実施
	明治36(1903)	入口階段を改修 東面石階布設
	大正11~12(1922~23)	基礎及び石垣修理
	昭和9(1934)	国宝(後に重要文化財)に指定される
	昭和12(1937)	天守内部掘立柱の根を切り石据えに改修
	昭和15~17(1940~42)	天守の解体修理
	昭和23(1948)	【福井地震】天守が倒壊
	昭和26(1951)	復興修理着手
	昭和30(1955)	工事竣工

丸岡城の曲輪と建物

※曲輪とは・・・城を構成するための一区画のこと。石垣や塀などで囲われた部分

江戸~明治時代の丸岡城の絵図をもとに、城内の曲輪の形や配置、そこに建っていた櫓や城門の名前と位置関係を一つの図にまとめたものです。色々な建物が建っていたことがわかります。



本図は「越前国丸岡城之絵図(正保城絵図)」を加工。

吉田純一『丸岡城~ここまでわかった!お天守の新しい知見と謎~』より

丸岡城関連資料

丸岡城に関する調査結果や関連資料を、冊子やパンフレットとしてまとめています。貴重な資料映像もあわせて公開していますので、関心のある方は、坂井市ホームページのほか、国立国会図書館や福井県内各市町村の図書館でもご覧いただけます。

丸岡城調査研究パンフレット
知られざる丸岡城



昭和15-17年の丸岡城天守
解体修理工事の記録映像

